

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【音楽科】

1. 対象 特別支援学校 高等部1年
2. 単元名 「きれいな音色で演奏しよう」（全12時間）
3. 単元の目標

知識及び技能	・楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解し、奏法の特徴や効果を活かして表現する技能を身に付けることができる。
思考力、判断力、表現力等	・楽曲に相応しい楽器の音色や奏法について、思いや意図をもち、表現を創意工夫することができる。
学びに向かう力、人間性等	・奏法による楽器の音色や響きの違いに関心をもち、楽しみながら主体的・協働的に、学習活動に取り組むことができる。

4. 本時の目標

きれいな音色でギターを演奏することができる。（思考力・判断力・表現力等）

5. 授業展開 【単元】

解決したい課題や問い

きれいな音色になる奏法を考える。

きれいな音色で、ギターコードを使って曲を演奏する。

考えるための材料

○思考するため

- ・自分の演奏動画、範奏動画
- ・奏法ヒントカード（押さえる位置、指や手の角度、強弱）
- ・自分の考えを伝えるときの言葉カード

○思考を整理するため

- ・自分の演奏と範奏の比較内容を整理するワークシート（音色、強弱、右手、左手）
- ・範奏を聴いて良い音のポイントを書くワークシート

想定される活動

①きれいな音色とそうでない音色の聴き比べ

→きれいな音は響いてよく伸びている、そうでない音は短く切れていてあまり鳴っていないと気付く。

②自分の演奏と範奏を聴き比べ

→自分の演奏はしっかりした音が鳴っていない、範奏はきれいな音と気付く。

③きれいな音色で演奏する方法見つけ

→様々な手や指の位置や角度を試す。友達の奏法を見て真似する。

対話と思考（対話を通した協働的な問題解決のプロセス）

①きれいな音色とそうでない音色の聴き比べ

→聴き取ったことを伝える言葉カードを用意し、自分の考えに近いものを選択できるようにする。

②自分の演奏と範奏を聴き比べ

→音色、指や手の角度や位置に注目し、ワークシートで思考を整理できるようにする。

③きれいな音色で演奏する方法見つけ

→奏法ヒントカードや友達の奏法を見ることで、手や指の角度、強弱を変えると、音色が変わることに気付けるようにする。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・音が鳴らないときは、指の角度を変えたり弦を1本ずつ鳴らしたりして確かめながら演奏する。
- ・きれいな音が鳴らないときには繰り返し練習をする。
- ・友達の練習している姿を見て、奏法を真似したりポイントを聞いたりする。
- ・もっと上手に弾けるようになりたい、ギターを買おうかなと言っている。